THE CHAIR OF HEALTH 136

医師会健康講座

B型肝炎ウイルスとワクチンについて

上田小児科・外科（広小路）　上田　誠

B型肝炎ウイルス（HBV）は血液・体液を介して感染する肝臓の病気です。HBVは急性肝炎の後に治癒する一過性の感染と生涯にわたり感染が継続する持続感染（キャリア）の2つに分かれます。キャリアの80～90％の人は肝臓の機能は安定していますが、残りの10～20％の人は慢性肝炎に移行し肝硬変、肝臓がんになる場合があります。

全世界では約20億人の感染既往者と3億人のHBVキャリアがおり、毎年約60万人が肝疾患で死亡しています。日本ではHBVキャリアは国民の1％、130～150万人と推定されています。

感染経路は「母子感染」と「水平感染」です。「母子感染」は出産時にキャリアのお母さんから血液を介して感染しますが、現在は出生時からの予防接種のおかげで赤ちゃんへの感染は激減しています。

「水平感染」は父子感染などの家族内感染、保育園の集団感染、性交渉、医療従事者の針刺し事故による感染などがあります。園児の噛みつき、運動部での汗を介しての感染など、体液（唾液、汗、涙など）でも感染することがあります。キャリアの多くは自覚症状がないため、知らないうちに感染させてしまう可能性があります。

成人の感染は一過性感染が多く、キャリアになる人は少ないですが、特に3歳未満での小児の感染はキャリアになりやすいことが分かっています。最近日本では欧米型の遺伝子タイプのHBVが、性的活動の高い若年成人を中心に増加しています。これは国際交流が盛んになったことによるもので、今後さらに感染者が増加すると予想されます。

しかしながら、HBVはワクチンで予防できます。世界の多くの国では既に定期接種になっており、日本は遅れていましたが、平成28年10月から定期接種になります。対象年齢は平成28年4月以降に生まれた0歳児です。接種開始は生後2ヵ月からで、1回目と2回目は4週間間隔で接種し、3回目は1回目から20～24週経過した後に行います。

特に注意が必要なのは、平成28年4月～7月に出生した赤ちゃんの場合です。10月からできる限り早く接種を開始し、1歳までに3回の接種を完了しないといけません。3回目が1歳を過ぎれば、任意接種となり、費用は自己負担になります。

1歳以上で接種を希望する人は、任意接種で行います。他のワクチンとの同時接種も可能です。生後2ヵ月からの予防接種なので、早めの接種を心がけてください。ワクチンで大切な赤ちゃんを守りましょう。